

NO 4  
15

木下長嘯  
石川丈山  
小堀遠州  
松花堂  
依川吉吉六  
古田印齋

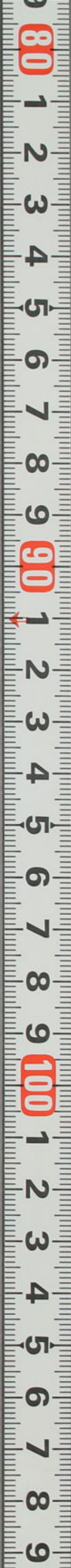
今大路道三  
釋春屋  
釋春外  
里村昌琢

十七

名家手簡

九集

上



九集

香雪先生鈎摹

名家手簡

天寧閣藏板



名家手簡九集目錄

上卷

水卜長嘯

石川丈山

小堀遠州

釋 昭乘

佐川田昌俊

古田印齋

今大路道三

釋 春屋

釋 春外

里村昌琢

下卷

岡部縣居

神立愚純

加藤枝直	羽倉御風
香川宣阿	藤井貞幹
鷄士寧	釋無幻
北向雲竹	沼尻龍厓
佐木照元	祇園百合

木下長嘯

名勝後肥後守家定男稱若狹守後退隱洛東靈山  
号東山夢翁天哉翁松洞善和歌慶安元年没

追ふ三子三四三  
 之歌可原名建  
 信名三子應  
 之洪中一おふ文

家本公之可也  
少中一明也  
秀光、之  
及、  
名物、  
と、  
と、

と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、

二月一日

書



小坡寺山房

石川丈山

名四初名重之字丈山号六山人称嘉右衛門三河人  
退隱于洛北秘詩仙堂寬文十二年没九十  
小林堂藏

石川丈山  
書

尺牘野雞  
一羽牛音  
此造之  
好如  
先以  
中

尺牘野雞  
一羽牛音  
此造之  
好如  
先以  
中

老丈も大抵  
無恙又、毎  
牛馬之卒  
と望む可し  
あり

傳へらるも  
あつたが、示  
新、毎生、祝  
主上、宗、あ、い、ん、ん  
い、し、中、い、ん

小堀政一

初名作助称遠江守法名宗甫号孤蓬書法為一家  
為遠州茶流之祖正保四年辛六十九

小堀政一  
漸具卦法  
江國  
櫻山

遠江守  
孤蓬  
宗甫





釋 昭 乘

中治氏祚式部卿住城州八幡山瀧本坊号松花堂  
惺翁能書画寛永十六年没五十六  
家藏

所書皆從筆  
作

一 しろ ぶら ぶら ぶら  
きり くり くり くり  
さき せん

一 切 口 大 初 田 一

地 物 二 分 二 分 二 分  
心 為 少 少 少 少 少 少

うー 取手  
あると  
うー 列  
うー 列  
うー 列  
うー 列  
うー 列

うー  
うー  
うー 大  
うー 列  
うー 列  
うー 列  
うー 列  
うー 列



延慶二年

佐川田昌俊

本姓高階稱喜六号殿、菴臥輪子不二山人住  
永井尚政後任城州新里寛永廿年没六十五

以奉祀之、  
しるゝ、  
そん、  
しるゝ、  
ふり、

美一多中二一  
印手造

三ノ一  
造

三ノ一

傳田字  
造

古田印齋

名重勝送五位下織部正謚金甫宗屋居士善茶事  
鑒古器古稱織部流元和元年没

一  
一  
一

よき事と云ふ

らむ

一 かつ若くらく

わく ま ま ま

一 かつ ま ま ま

か ま ま ま

か ま ま ま

ま ま ま

か ま ま ま

十一  
三

一

小  
化  
根  
中  
部  
成

6

今大路道三

橘姓始曰曲直瀬氏後改今大路号一溪等皓  
蓋辭子文錄四年辛八十九

少  
名  
少  
交  
月  
初  
咳  
呻  
何  
之  
極  
旬  
支  
也  
多  
了  
以  
二  
三  
年  
以  
年  
分  
十  
田  
集  
友  
入  
之  
美  
以  
抄  
返  
以  
味



し花衣う休むし  
つらむし 暮るは  
うけぬし 入蔵の  
春のし 小あし  
まはし 休るは  
あけを 俄るは

世やあわし多ふ又し  
むのま

さそ 立まを  
中風し吹るさ  
るまことつるりの  
あまを  
ふらぬのま

とつれんきふうぬいるをわりの山  
海を渡る

秋葉のうらたあつあつとき  
あまのあま  
ふじあまの  
大あの原  
口小あま  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの

真性院

臨江寺老林令中  
記

釋春屋

名宗園住大德寺号一默子安嶺宗新法嗣  
慶長十六年寂八十三

家藏

去九月送稿唯傳  
披覽必事家法  
立後之刻 遂其法

忻然於此出言信白棉正  
卒盡不付謝禮少  
再書之時後五割十  
新筆寸毫雖平不立

仲夏初日  
三

圃

無名

釋

春外

名宗信住大德寺祥巖宗鶴法嗣  
貞享五年寂六十三

子修翁以  
之  
翁  
中

地  
一  
制  
寫  
地  
一  
制  
寫

地  
一  
制  
寫  
地  
一  
制  
寫

世  
 道  
 閏三月廿七日  
 花  
 張大

里村昌琢

名景敏号什齋、懷惠菴、昌此只善連歌  
 叙法摘寛永十三年卒

昌  
 琢  
 昌  
 琢  
 昌  
 琢

とあはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ

あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ  
あはれまへ

東山堂の書也とあり  
しおのりううと書き  
七九  
私切孫乳くらり  
お誦

仲松舎ハ  
昌孫

小色別抄名仲松  
環



